

# 県議会やまがた

12月定例会号

第40号 / 令和5年(2023年)2月発行(年4回発行)



[12月定例会] 閉会にあいさつする坂本貴美雄議長

## 目次

- ◆ 1ページ 12月定例会の概要
- ◆ 2ページ 12月定例会の代表質問
- ◆ 3ページ 鶴岡市で発生した土砂災害現場の緊急現地調査を実施
- ◆ 4ページ 東北中央道・日沿道の建設促進と羽越・奥羽本線などの高速化促進を国に要望
- ◆ 5ページ 2ページ 12月定例会の一般質問
- ◆ 6ページ 予算特別委員会の質疑内容
- ◆ 7ページ 若者向け広報紙「県議会ナビ第7号」を発行
- ◆ 8ページ 3ページ 予算特別委員会の質疑内容
- ◆ 9ページ 可決した意見書
- ◆ 10ページ 生徒・学生との意見交換会を開催
- ◆ 11ページ 新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を開催
- ◆ 12ページ 4ページ 決算特別委員会の概要
- ◆ 13ページ 県議会ギャラリーで産業教育を学ぶ高校生の学習成果を紹介
- ◆ 14ページ 山形交響楽団による議場演奏会を開催
- ◆ 15ページ 地域議員協議会を開催
- ◆ 16ページ 県議会インターネット中継・傍聴のご案内

## 12月定例会の概要

「県議会やまがた」第40号は、12月定例会の内容を中心に、主に11月から1月にかけての議会活動についてお伝えします。

12月1日から20日までの20日間の会期で開催され、冒頭、閉会中の審査に付されたいた決算関係4議案を可決し、17決算を認定しました(決算特別委員会の概要については、4ページに掲載)。次に、本会議で自由民主党、県政クラブによる代表質問、3名の議員による一般質問を行い、さらに予算特別委員会では8名の委員による質疑や常任委員会での審査を経た

## 代表質問から



自由民主党 伊藤 重成 議員 (最上郡選挙区)

### トンネル整備の早期事業化に向けた要望活動

県選出国会議員と連携し、政権与党に整備の必要性をしっかりと理解してもらい、政府支援へとつなげていく必要があると考えるがどうか。

トンネル整備には多額の費用を要するため、政府に財政支援を求めていく必要がある。令和4年1月には県選出国会議員などとともに国土交通大臣に要望し、JR東日本の社長と意見交換を行った。同年9月には自民党の関係勉強会に初めて参加した。早期事業化に向けて、県議会・県選出国会議員と連携し要望活動を行うなどオール山形体制で全力で取り組んでいく。



上で、新型コロナウイルス対応や物価高騰対策を含む令和4年度一般会計補正予算をはじめ、知事提出の34議案及び委員会発議の「山形県議会の保有する個人情報保護に関する条例」を可決・同意しました。

請願は1件上程され、継続審査となりました。意見書は2件発議し、原案どおり可決、国会・関係する府省に提出しました。

### 飼料価格高騰に対する今後の畜産における取組み

畜産経営の安定のため、自給飼料の生産拡大に向けた今後の対策はどうか。

県では、自給飼料の生産と利用拡大の推進のため、飼料收穫機械の導入などの飼料コスト削減を支援している。中でも稲穂ホルク、ロップサイ、レージの令和4年度栽培面積は過去最大の1,115haに拡大しており、特に「山形飼糶138号」の作付面積の拡大を図っていく。子実用ともろこしも年々作付面積は増加しているが、保管場所の確保など課題もある。耕畜連携の推進や自給飼料の流通体制の確立支援など自給飼料の確保にしっかりと取り組んでいく。



### 新たな県立新庄病院

移転する県立新庄病院に、地域の要望への対応や新病院へのアクセスの確保は、どのような状況か。

新庄市夜間休日診療所の機能移転、こども医療療育センターに通う障がい児への対応、口腔ケアを行う歯科の新設などの要望について関係者と調整を進め、連携して取り組んでいる。新病院へのアクセスについては、降雪期の十分な駐車スペースと安全な歩行ルートの確保、路線バスへの乗入れ継続のほか、国道13号への信号機設置など関係機関と連携して取り組んでいる。



県政クラブ 高橋 啓介 議員 (山形市選挙区)

### LGBTQ(性的少数者)などの多様な生き方を認め合える社会の推進

偏見と差別のない社会の実現に向け、今後どう対応するのか。

多様な性への理解を拡げるイベントが本県を含む全国各地で開催されるなど、性的少数者に関する社会の関心は高まっている。

### 指定管理施設の電気料金などの高騰に伴う支援

電気料金などの高騰を踏まえ、指定管理施設の運営をどのように支援していくのか。

指定管理者と県との協定に基づき、施設の管理運営に支障を来すような大幅な物価変動が発生した場合、両者でその負担について協議できることを踏まえ、物価高騰について指定管理者に聴取したところ、全体の約3割から影響があると回答があった。物価高騰が施設の管理運営に与える影響は協定の内容などにより様々であり、今後も個々の施設の状況に応じて柔

軟に対応し、公共施設の安定的な運営に取り組んでいく。労働者協同組合の趣旨を生かした地域づくり

労働者協同組合の活動の拡大に向け、今後どのように取り組んでいくのか。

令和4年10月に制度化された労働者協同組合は、多様な働き方の実現や地域づくりに取り組み際の新たな選択肢として期待されることから、

## 鶴岡市で発生した土砂災害現場の緊急現地調査を実施

1月31日、建設常任委員会が12月に鶴岡市西目地内で発生した土砂災害について緊急に現地調査を行い、被災状況や今後の見通しなどについて関係者から説明を受けました。土砂災害の防止や災害発生時の備えなど、伺った話を今後の議論につなげていきます。



企業組合などを対象に活動事例を紹介する説明会を開催した。

今後、制度に関する情報発信や地域住民への説明会を開催するなど、引き続き制度の周知・啓発に取り組んでいく。また、同組合を設置し地域課題などに取り組みたいとの相談があった場合は、市町村などと連携して事業の実現を支援していく。

## 東北中央道・日沿道の建設促進と羽越・奥羽本線などの高速化促進を国に要望

11月11日、東京都内で「日本海沿岸東北自動車道建設促進青森・秋田・山形・新潟四県議会協議会」及び「東北中央自動車道建設促進秋田・山形・福島三県議会協議会」(いずれも会長：山形県議会 坂本貴美雄議長)の主催により、国土交通省と東日本高速道路株式会社の幹部職員を招き、道路の整備などに関する五県合同意見交換会を3年ぶりに対面で行いました。意見交換会の後、石井浩郎国土交通副大臣に対して両道の建設促進と羽越・奥羽本線などの高速化促進を要望しました。



石井国土交通副大臣(右側)に要望書を手交する坂本会長

一般質問から



自由民主党 遠藤 和典 議員 (山形市選挙区)

財源の調整に向けたカーボン・クレジット市場への参加

政府が実証事業として開始したカーボン・クレジット市場に県のカーボン・クレジット事業を移行させることで販売量増加などの効果が望めると考えるがどうか。

カーボン・クレジット市場は、民間企業の参加が可能であり、取引相手の増加が期待される。しかし、本県が実施する相対取引のような独自の条件を自由に付すことが難しいなど、現時点ではメリットは少ない。県のカーボン・クレジット取扱量が大幅に増加する場合には効果的な市場の活用について勉強していく。

地方交付税の基準財政需要額への算定項目の追加

財政需要額の算定に当たり、森林面積など本県に有利となる項目の追加を国に提案してはどうか。

提案は制度の趣旨に合致すると考えられるが、本県の民有林面積は全国中位のため優位性は見いだしにくい。なお、「やまがた森林ノミクス」推進の立場から、環境保全や森林の活用に関連してSDGsやESG(環境・社会・企業統治)に寄与する企業版ふるさと納税のメニューを設けるなど、地方交付税以外の財源確保について研究していく。



県政クラブ 梅津 庸成 議員 (山形市選挙区)

大人のひきこもりへの支援

中高年のひきこもりに関し、より実効的な調査及び支援を行うべきではないか。

県が平成30年度に実施した調査では、ひきこもりの高年齢化や期間の長期化傾向が見られた。県では、「自立支援センター 巣立ち」を設置し、医師の助言を得ながら、ノウハウを持つNPOなども連携し本人や家族を支援しているほか、各保健所で面談や訪問などを行っている。今後も関係機関と連携し、一人一人の実情に寄り添って対応していく。

県内の教育におけるウィンタースポーツの現状と育成

競技者育成や郷土愛の醸成のため、スキーなどの授業の増加や予算の確保が必要ではないか。

学習指導要領で必修ではなく、限られた授業時間数や日程の中でスキーなどに取り組むことは難しい。しかし、その魅力や楽しさを味わえる環境が身近にあり、自然の美しさや醍醐味などを通し故郷への想いを育む機会になることから、授業の際に生徒の希望種目を取り入れるなど工夫をし、子どもたちが生涯にわたって親しめるよう促していく。



自由民主党 五十嵐智洋 議員 (長井市・西置賜郡選挙区)

電動モビリティシステム専門職大学

飯豊町に令和5年4月に開学する同大学への認識と学費確保に対する支援はどうか。

電気自動車と自動運転に特化した世界初の高等教育機関である同大学の開学により、関連産業に従事する人材の育成・確保、若者の定着や地域の活性化などが期待できる。県では入学案内や特色ある授業内容の周知など学生確保に向けた支援を行った。今後、施設見学会や体験入学パスツアーなどの支援を検討するほか、学生が集まりやすい環境の整備にも取り組んでいく。

国道113号回路整備、通行止め対策

国道113号の回路整備や通行止め対策にどう取り組むのか。

豪雨災害などでの通行止めによる孤立状態を防ぐには、高規格道路と直轄国道とのダブルネットワーク化が重要となることから、新潟山形南部連絡道路の早期完成を政府などに強く働きかけていく。また、警察などの関係機関と連携し非常時の通行方法について検討するほか、待避所の設置や部分的な道路の拡幅が可能かどうかについて検討していく。



予算特別委員会の質疑内容



自由民主党 梶原 宗明 議員 (酒田市・飽海郡選挙区)

サケふ化事業の現状と今後の取組み

本県の漁業振興に係るサケふ化事業の現状と今後の対応についてはどうか。

県では「山形県サケ振興指針」を策定し、①サケふ化施設の維持や機能向上の支援、②回帰率向上に向けた良質な稚魚の飼育技術向上の取組み、③近年の海洋環境の変化に対応した適期放流や大型種苗の放流の取組みを進めている。本県の重要魚種であるサケの漁獲量安定のため、関係者と連携を密にしなが、サケ資源の維持増大に取り組んでいく。

屋内スケートリンク整備の考え方

屋内スケートリンク整備に向けた検討の進め方や立地の条件についてはどうか。

県では「屋内スケート施設あり方検討会議」を設置し、県民がスポーツに親しむ環境の充実や競技力向上の観点に加え、地域活性化や若者・女性の定着・回帰の促進の観点で、施設の在り方や効果的・効率的な整備手法を検討している。有識者や関係者との意見交換や、県内外の施設の視察結果を踏まえ、立地の条件も含めてしっかり検討していく。



県政クラブ 青柳 安展 議員 (東根市選挙区)

ヤマガタ・ユース・サミット2022

県内初となるユースサミットの成果と継続開催についてどう考えているのか。

ユースサミットでは、国内外の第一線で活躍する経営者やアーティストが山形に集い、県内の若者たちと世界共通の課題などについて活発な議論が行われ、大変有意義だった。今後も開催を重ねながら、若者が山形、そして日本を誇りに思い、世界の中で山形の存在感を高め、本県のグローバル化を進めるサミットに成長させていきたい。

政策コンテストにより獲得した山形空港の羽田発着枠

政策コンテストにより獲得した羽田発着枠を恒久的な運航につなげるためどう取り組むのか。

羽田便の2便化により、日帰りのビジネス利用が可能となり、産業の活性化や交流人口増大の効果が非常に大きい。このため、コロナによる需要の変化なども踏まえながら、ビジネス利用の拡大に向けた支援や新たな旅行商品の開発など2便化維持のため関係団体などと連携してオール山形で利用拡大に取り組んでいく。



自由民主党 渋間佳寿美 議員 (米沢市選挙区)

里親制度の理解促進

里親などへの委託率の向上に向けた現状と課題、取組みはどうか。

里親及びファミリーホームへの委託率は令和4年8月現在21.3%で、令和6年度の目標である30.2%には及んでいない。県では、定年退職世代や子育て世代をターゲットに里親制度を普及・啓発しているほか、登録里親への研修や交流会の開催、児童受入後の関係機関によるバックアップ体制の整備や児童福祉司の訪問などにより支援している。

郵便局を活用した持続可能な地域づくり

持続可能な地域づくりに向け、郵便局を最大限活用すべきと考えるがどうか。

県では令和元年に日本郵便株式会社と包括連携協定を締結し、道路損傷などの情報を提供してもらっている。また、本県の7市町村がマイナンバーカードの申請サポート事業を郵便局に委託している。政府における郵便局と自治体との連携に関する実証事業や関係審議会での議論を踏まえ、郵便局と連携できる取組みについて引き続き検討していく。



若者向け広報誌「県議会ナビ (vol.7)」を12月に発行

県議会では、若い皆さんに県議会に関心を持ってもらうため、平成28年度から年1回、若者向け広報誌「県議会ナビ」を発行しています。

発行に当たっては、わかりやすさ・読みやすさはもちろんのこと、若い方の感性を活かしたデザイン・内容にしたいと考え、取材や編集には県議会と連携協定を締結している山形大学の学生の皆さんに協力してもらいました。多様な生き方や誰でも意見を出しあえる世の中、自由な発想をイメージして紙面の配色には明るいオレンジ色を使用し、内容についても選挙・投票についての学生の声を大きく取り上げるなど、若者に身近な内容となっています。

より多くの若い皆さんに手に取ってもらい、県議会や政治に興味を持ってもらえればと考えています。



学生による取材の様子

※「県議会ナビ」は県議会ホームページでご覧いただけます。





自由民主党  
椋津 博士 議員  
(寒河江市・西村山郡選挙区)

**少子化対策における結婚支援**

**問** 婚姻数の減少が少子化に大きく影響する。今後どのように結婚を支援していくのか。

**答** 令和4年11月に導入した「Aiナビヤマガタ」は自宅から利用できる新しいマッチングシステムで、従来より幅広い出会いが期待できることから登録者数の増加に向けPRに力を入れていく。

また、結婚までの伴走支援を行うなど、利用者に寄り添い、結婚につながるよう支援の充実を図っていく。



**イノシシ捕獲従事者の負担軽減**

**問** 有害鳥獣捕獲及び処理に従事する猟友会員の確保に向けて一層の支援が必要と考えるがどうか。

**答** 県では、新規猟者の猟銃の取得支援など負担軽減に資する各種施策を実施している。さらに、猟友会支部が取り組む捕獲研修などの経費に対する柔軟な支援を検討している。また、捕獲したイノシシの運搬や処分方法は市町村によって異なっており、処理施設の整備が円滑に進むよう支援していく。



自由民主党  
奥山 誠治 議員  
(山形市選挙区)

**地方の声を国政に反映させる方法**

**問** 「知事と国会議員の兼務」について、どう考えているのか。

**答** 少子高齢化・人口減少が進行する中、持続可能な発展のためには元気な地方をつくっていく必要がある。そのため、地方の声や実情がしっかりと国政に反映される仕組みが重要である。関係法令の改正が必要になるなど様々な課題があるが、地域の代表であり地域を熟知する知事が国政に参加することが望ましいと考えている。

**外国人材の日本語学習機会の確保**

**問** 外国人材の地域定着には、日本語の学習機会の確保が重要になると思うがどうか。

**答** 今後外国人材の受入れの増加が見込まれる中、日本語の学習機会の確保と充実を図ることが一層重要となる。在住外国人が持てる力を最大限発揮できる社会を実現するため、政府の支援事業の活用を検討するほか、国際交流団体などと連携の下、専門性を有する日本語教育の人材育成や、地域のニーズに応じた日本語学習プログラムの編成及び実践を計画的に進める。



自由民主党  
田澤 伸一 議員  
(東田川郡選挙区)

**東北公益文科大学公立化に向けた対応**

**問** 同大学の公立化・機能強化に向け、どう取り組むのか。

**答** 令和4年11月に副知事座長とし、地元自治体の首長と意見交換を行い、公立化などの進め方について様々な意見が出された。今後、県の考えも提示しながら調整していく。公立化による県や市町の財政負担に関し専門家に分析を依頼するほか、機能強化の方向性について関係者と議論を進め、地域経済の持続的発展などの観点も踏まえ、スピード感を持って公立化及び機能強化を進めていく。



**陸羽西線の再開後に向けた取り組み**

**問** 陸羽西線の運行再開に向けて沿線の活性化にどう取り組んでいくのか。

**答** 令和6年度中の運行再開を見据え、今のうちから沿線の活性化や利用拡大に向けた地域の機運醸成を図ることが必要である。令和4年10月に締結した県とJR東日本との包括連携協定を受けて、駅で地域資源を活かしたイベントを開催するなどしており、引き続き、地域の方々と一緒に沿線活性化の取組みを検討していく。



県政クラブ  
木村 忠三 議員  
(米沢市選挙区)

**米坂線の早期復旧に向けた進め方**

**問** 令和4年8月豪雨で甚大な被害を受けた米坂線の早期復旧へ向けた進め方はどうか。

**答** 米坂線は、地域住民の生活を支える交通機関であり、山形・新潟の広域ネットワークを形成する重要な路線である。これまで、沿線自治体とともに、国土交通省やJR東日本に一日も早い復旧を要望してきた。全線復旧に向け、新潟県側とも連携し、引き続き要望活動を展開していくとともに、復旧を見据えて沿線活性化の取組みも併せて進めていく。



**国道121号の将来的な在り方**

**問** 国道121号は、将来的に高規格化を図るよう福島県とも意見を共有し議論してはどうか。

**答** 県では令和3年度に「新広域道路交通計画」を策定し、計画的な道路整備を進めている。国道121号は山形・福島両県にとって物流や観光などを担う重要路線と考えており、8月の豪雨による被害で路線の重要性と強靱化の必要性を改めて確認した。豪雨などによる道路被害を検証するための会議を設置し、課題をしっかりと検討していく。



自由民主党  
志田 英紀 議員  
(鶴岡市選挙区)

**県立博物館の移転整備に係る予算を含めた検討の必要性**

**問** 県立博物館の移転整備についてどう考えているのか。

**答** 博物館の移転整備については、その機能を評価・分析するとともに、有識者懇談会の意見を聞くなどしながら検討を進めていく。なお、限られた財源で博物館の整備を含む複数の大規模プロジェクトを推進していく必要がある。これらの事業に関する課題や手順などを整理した上で総合的な観点から協議し、スケジュール感を持って適時適切に取り組んでいく。

**蓄養・養殖のための漁港の活用**  
**問** 漁港を養殖などで利活用するために、機能の集約化を進めてはどうか。  
**答** 漁港機能の集約化は、維持・修繕に係る費用や漁業協同組合の集出荷などの負担軽減の観点から有効である。一方で、漁港によっては管理者や漁業者などの利害関係者が異なることから、丁寧に合意形成を進めていく必要がある。県では、関係者の理解を深める取組みを進めながら、漁港などの機能集約化や利活用について検討していく。

**生徒・学生との意見交換会を開催**

県議会では、生徒・学生の皆さんに県議会を身近に感じてもらい、主権者としての政治参加意識の醸成を図ることを目的に、県議会議員との意見交換会を開催しています。

11月1日、酒田市立酒田看護専門学校1年生23名の皆さんと「人間の多様な価値観を尊重する」をテーマに、5班に分かれてグループワーク形式で意見交換を行いました。

SOGI（性的指向・性自認）についての理解を深めるとともに、LGBTQ（性的少数者）の人たちが生きやすい社会を構築するために必要なことなどについて、看護師を目指す学生ならではの意見も出され、活発な議論が行われました。



**新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を開催**

12月15日、新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を開催し、株式会社モス山形 代表取締役 山本正幸氏（写真上）及び銀山温泉組合 副組合長 小関健太郎氏（写真下）から、ウィズコロナ・ポストコロナの経済社会に対応するための課題や新たに行った取組み、対応に当たっての苦労や工夫されていることなどについて話を伺いました。



※意見書の全文は県議会のホームページでご覧いただけます。



**可決した意見書**

● 感染症や大規模災害等の緊急事態に対応できる国づくりに向けた議論を求める意見書  
● 電気料金の高騰に対する支援の拡充を求める意見書

決算特別委員会の概要

10月26日から28日までの期間に開催され、9月定例会に提出された令和3年度の一般会計、10の特別会計及び6の事業会計の計17決算、各事業会計の未処分利益剰余金の処分に関する4議案について、6つの分科会を設置して審査を行った上で、2名の委員による総括質疑を行いました。総括質疑における主な質疑内容は、次のとおりです。



自由民主党  
柴田 正人 議員  
(南陽市選挙区)

持続可能な財政運営に向けた調整基金の適正規模

**問** 調整基金残高はどの程度の規模が適正と考えているか。

**答** 災害などの突発的な財政需要に備え、理想としては300億円以上の調整基金を確保したいが、令和3年度末の実質的な残高は約147億円であり、決して楽観できる財政状況ではない。今後も社会保障関係経費の自然増などにより今後数年は多額の財源不足が生じるものと見込まれ、歳入歳出両面から不足額の解消に向けた対策を講じ、調整基金の取り崩しの抑制に努めていく。



公立・私立を合わせた県全体の高校教育の在り方

**問** 私立高校を含む高校教育の在り方をどう考えるか。

**答** 将来にわたる本県の発展には未来を担う人材の育成が重要であり、全ての子どもが安心して教育を受けられるよう教育機会の確保や教育環境の充実に努めてきた。今後、少子化が進む中で県全体や各通学圏における高校教育の在り方の検討が必要である。地域公共交通網による通学手段の確保や地域の持続可能性という視点を踏まえながら、市町村などと議論していく。



県政クラブ  
石黒 健 議員  
(酒田市・飽海郡選挙区)

令和3年度の県政運営に対する評価

**問** 令和3年度における県政運営をどのように進め、どのように評価しているか。

**答** 新型コロナウイルスの感染拡大に直面し、国難とも言える社会経済情勢の中にあつて、「コロナ克服・山形経済再生」を掲げ、全力で各種の取組みを進めてきた。新型コロナウイルスや自然災害など喫緊の課題に対応しながら、ウィズコロナ・ポストコロナを見据え、県勢発展につながる施策を展開できたと考えている。

令和3年度決算に関する監査委員の意見

**問** 監査結果において是正・改善を要するものが前年度より増加した。どう捉え、改善に向けてどう取り組むべきか。

**答** 不適正な事務処理が発生した背景には、新型コロナウイルスや自然災害への対応など全体的な事務量の増加の中

で、組織的な確認や進行管理が十分でなかったことなどが挙げられる。所属長の適切なマネジメントの下、職員同士のコミュニケーションを活性化させ、風通しの良い職場風土を醸成し、事務事業の進捗状況の共有や協力体制の一層の強化などに取り組むことが重要と考える。

県議会ギャラリーで産業教育を学ぶ 高校生の学習成果を紹介

県議会ギャラリーでは、12月定例会の期間中、産業教育を学ぶ県内の高校生が日頃の学習成果をまとめたパネルなどを展示しました。今回は生徒たちが議事堂を訪れ、それぞれの取組みなどについて丁寧に発表をしてくれました。



山形交響楽団による 議場演奏会を開催

12月13日、県議会をより身近に感じていただき、理解と関心を深めてもらう取組みの一環として、山形交響楽団による議場演奏会を開催しました。本会議場は弦楽八重奏が響くコンサートホールに様変わりし、議員や傍聴者の皆さんが美しい旋律に身を委ねました。



地域議員協議会を開催

地域議員協議会は、各総合支庁において地元選出議員が一堂に会し、地域における行政課題や施策展開について、幅広い調査・審議・提言を行い、総合支庁における施策・事業への反映を図るものです。令和4年度は11月18日に開催し、活発な議論を行いました。

【主な審議項目】

東南村山

- ・山寺地区の無電柱化について
- ・観光業の現状及び需要喚起策について
- ・果樹の改植について
- ・むらやま広域婚活事業について
- ・県道長岡中山線の整備の進捗状況について

西村山・北村山

- ・主要地方道大江西川線の整備について
- ・山形空港に係る二次交通について
- ・イノシシ、クマなどの鳥獣被害対策について
- ・子実用とうもろこしの栽培実証について
- ・寒河江スケートパークの活用について

最上

- ・新庄病院に設置される総合患者サポートセンター及び在宅医療・介護連携拠点について
- ・肥料価格高騰への対応について
- ・観光客確保に向けた取組みについて
- ・鉄道沿線活性化プロジェクトの推進について
- ・「新庄・最上ジモト大学」の取組みについて

置賜

- ・8月3日からの豪雨災害に係る対応について
- ・置賜地域の児童生徒の不登校及びいじめの現状と対応について
- ・電動モビリティシステム専門職大学の入校者確保について
- ・イノシシの広域捕獲活動支援事業について
- ・国道121号の本線復旧に向けた県の考え方について

庄内

- ・藤島地域への小中一貫校の設置に係る経緯について
- ・庄内産米の作況について
- ・酒田港東岸壁にオープンした交流施設について
- ・ズワイガニ漁について
- ・日本海沿岸東北自動車道の整備促進について



東南村山地域議員協議会の様子

県議会は、年に4回(2月・6月・9月・12月) 定例会を開催します。

「県議会やまがた」は、各定例会の概要などをお知らせします。

編集・発行 山形県議会

〒990-8570 山形市松波2-8-1 TEL 023-630-2846  
https://www.pref.yamagata.jp/kensei/assembly/index.html

山形県議会 検索



県議会インターネット中継・傍聴のご案内

県議会の本会議や委員会は公開されており、どなたでも傍聴することができます。本会議と予算特別委員会は、インターネット中継を行っておりスマートフォンからもご覧いただけます。なお、現在、傍聴席については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、間隔を保った座席利用とし、本会議場で利用可能な座席数は50席、予算(決算)特別委員会では15席となっています。

問合せ先 023-630-2840